

富津市 <sup>にしや</sup>西谷古墳

富津市西谷古墳は内裏塚古墳群のなかの 1 基で、古くからその存在を知られていました。主体部の横穴式石室は盗掘を受け、天井石や積み石の一部がなくなっています。昭和 26 年(1951)年に早稲田大学、昭和 58 年(1993)に(財)君津郡市文化財センターによって部分的な調査が行われ、今回が三度目の調査となります。

今回の調査では、人骨が埋葬されたままの状態出土したこと、嚴重に石で閉塞されていたことなどから、当初、羨道とされていた部分が玄室の前室にあたることがわかりました。

人骨は、後室との境に立てられた仕切り石付近から頭蓋骨が出土したことや大腿骨の並び方から、後室側(北西方向)に頭を向け、3 体～4 体が伸展葬にされていたようです。これらの下からはさらに 2 体分程度が出土し、合計で 5 体～6 体が前室に埋葬されていたことがわかりました。

遺物は、人骨の周辺から副葬品である鉄鏃・刀子・ガラス玉・耳環などが出土しました。前室の側壁際からは須恵器が 6 点出土し、その下からは土師器の鉢が、さらに最下層には川原石が並べられていました。



横穴式石室全景(南東側から撮影)



埋葬されていた人骨



土師器の鉢





玉類・耳環の出土状況



川原石が並べられている様子



耳環



2月8日(土)に現地説明会を開催しました。271名の参加がありました。